



陶史の森からのご案内

バードウォッチング（自由参加）
12月28日（日）、1月25日（日）
午前9時～11時
※集合場所は林泉の池堰堤です。

◆12月29日（月）～1月3日（土）は
休園します。

トレードマークは白い額 ーオオバンー

冬。林泉の池にさまざまな水鳥がやってくる季節を迎えました。その中に、額とくちばしが白く、体は灰黒色の鳥がいます。ツルの仲間でクイナ科の「オオバン」です。

「水鶏（くいな）」という科名の通り、オオバンは水辺の草やアシの中に生息しています。「キュイツ」と鳴く高い声が特徴です。全長は約39センチメートルあり、クイナ科の中で最も大きく太っています。足は緑青色をしていて、陸上を歩くこともあります。水上で過ごすことが多く、危険を感じると素早く池の中に

逃げていきます。北海道では夏にやってくる「夏鳥」として、本州・九州・四国では越冬するためにやってくる「冬鳥」「留鳥」として知られています。陶史の森にも寒くなるとやって来て、カルガモなどと一緒に泳いでいます。

遠目に見ると、白い額がまるでホラーゲームに出てくる仮面のようで、少し怖いと感じるかもしれません。しかし、その見た目と裏腹に、頭をフリフリして泳ぐ姿はなんともかわいらしく、思わずほほ笑んでしまいます。ぜひ観察してください。

トキハク
プロジェクト

新博物館準備だより

学芸員は、いま何してる？

美濃陶磁歴史館
(☎55-1245)

第20回 博物館資料を守る学芸員の仕事

日本では古くから、年の暮れに大掃除をして家中を清め、新年を迎える習慣があります。皆さんのお家ではいかがでしょうか。

博物館でも、大切な資料を守るため、収蔵庫や展示ケース内の清掃を行うことは学芸員の重要な仕事のひとつです。なぜ、清掃が重要なのでしょう。資料にとつての大敵はカビと虫です。大敵から資料を守るため、清掃によってカビの栄養源となるほこりを払い、紙や木、布などを好む「文化財害虫」を駆除する必要があります。

加えて、カビの発生や資料の劣化を防ぐには温度と湿度を一定に保つことも重要です。そのため、収蔵庫や展示室に温湿度を記録する機器を設置し、常に温湿度の状態を見ながら、空調の調整を行うことも、学芸員の仕事です。

このように、博物館でカビや虫の害から資料を守る対策を、「IPM（総合的有害生物管理）」といいます。今から20

30年ほど前までの博物館では、化学薬剤のガスによってカビや虫を殺す「燻蒸」が行われていました。ところが、薬剤が地球環境に悪影響を及ぼすため、徐々に燻蒸が行えなくなりました。代わってIPMが導入され、日々の清掃、目視による虫害の管理、温湿度の記録といったアナログな方法によって資料の保存に取り組むことが主流になってきました。とても地道な取り組みですが、休館中の現在も、新館開館後も学芸員の重要な仕事であることには変わりはありません。



博物館で資料を守るための用具
温湿度記録計（左）と捕虫トラップ（右）